

窓

京都新聞 令和元年（2019年）6月5日（水）

手紙だけの連絡 大切な人

京田辺市・保田 夕佳（大学生・20）

私には将来の仕事のために、今年の4月から1年間頑張っている大切な人がいます。携帯もテレビもなく、夏場でも部屋にはクーラーもない過酷な状況です。その大切な人との連絡手段は手紙だけです。

出発してしまう前は、どうなることかと思っただけ、見送って1週間と少し、数回届いた返事の封筒を見るだけで笑顔になり、明日からも頑張ろうという気持ち

など、さまざまな思いがあふれます。会えないことは寂しいけど、相手の文字だけでこんなに思えることは、携帯が普及した現代では、なかなか味わえない良い経験だと思っています。

私は元々、紙に残ることが好きで、置き手紙を書いたり、何かあった時は手紙を送ったりしています。ぜひ、みんなにも文字の力を、そしてそれはいつでも読み返すことができるという良さを感じてほしいのです。会員制交流サイト

（SNS）が普及している今だからこそ、たくさん文字を書いて伝えてほしいと思います。

※無断転載不可